

こちら特報部

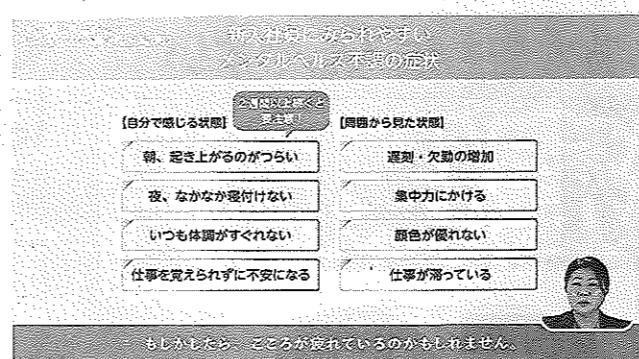
FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

最大9連休 コロナ禍生活緩和 会社や学校億劫に

この時期、出社が億劫になる人は少なくないだろう。例年、5月の大型連休明けは「五月病」に陥り、仕事や学校から足が遠のく人が増える。今年はとりわけ、最大9連休をとることもできた上、新型コロナ5類移行と重なって生活が変わる影響もあり、これまでとは違う五月病になるかもしれない。(中沢佳子)

「今週、社長自ら新入社員と昼食し、仕事への思いや不安などを率直に聞く機会を用意しました。五月病対策の一環です」。高校生の就職・採用支援会社「シンジブ」の広報担当者が語る。これまで、新人の悩みには若手社員が個別にに応じていた。しかし、今春は一昨年の二倍以上の四十三人が入社。全員を対象にした対策が必要と考えた。社長ランチの他、休みに入る前の四月二十八日に配属先を内示し、休み明けの今月八日、社長が全員を集めて訓示した。配属は昨年より一カ月ほど早い。四月の研修を終えて燃え尽きがちだし、今年は連休も長いので気が抜けることのないよう、連休前に次の楽しみや目標を示しました。やる気が出ない、頭痛やいらぬ症状が出る五月病。ソフトバンクの子会社「ヘルスケアテクノロジーズ」が三月、二十一世代の千二百七十六人に行った調査で

今年の「五月病」は違う？



は、55・6%がなくなったことがあると自覚し、仕事を休んだ経験のある人は46・8%に上った。退職者も28・6%いる。大人だけではない。例年、この時期は登校を渋る子どもが目立つ。二十三年の小学校教員の経験がある教育評論家の親野智可等さんは「進学や進級にともなうクラス替えで、新しい先生や同級生に囲まれるのは、子どもにとって世界が

新入社員のメンタルヘルス不調について説明する厚生労働省ホームページの動画

変わるほどの大きな変化。四月は緊張感が続き、連休明けに疲れが「一気に出る」と説明。教員と合わない、友だちグループに入りそびれた、勉強が分からなくなった。さまざまな心労がかさむ時期だという。五月病が疑われる子どもにどう接するべきか。「表情が乏しい、食欲がない、眠れないといった兆候を察知し、話をじっくり聞いて『大変だったね』と共感を示すのが大事」と親野さん。「休みたい」と言い出した子には、無理に登校させないようにも言い添える。さらに今年はコロナ対策の転換と重なり、五月病が増加するとも見込まれている。一因が「脱マスク」の空気がだ。「だてマスク依存症」の著書があるカウンセラーの菊本裕三さんは「容姿コンプレックスがある人や内向的で他人との交流を避けたい思いのある人は、マスクを使い続けたこと。誰もがマスクを着けたこ

対策は「話を聞いて」「オンライン化進めて」

コロナ禍では埋没していたが、これからはあぶり出されてしまつ。相当、恐怖感があるだろう」と指摘。自粛生活の反動で、脱マスクや人との交流を歓迎する空気が濃くなれば、職場や学校に行きにくくなる人が増えるともみる。精神科医の和田秀樹さんは「五月病は、人間関係が苦手、完璧主義といった人に多い。新しい環境に適應しようともがき、疲弊した末に陥る。コロナ禍でオンラインの活用が進み、人間関係のストレスも減って気が楽になった人も多かった。最大9連休だった今年、夏休み明けに子どもの自殺が増える現象と似た状況になりかねない」と危ぶむ。和田さんは他人と何かをすることに重圧を感じる人は相対的に多いとし、こう提言する。「日本はコミュニケーション能力の高さばかり重視しがちだ。しかし、他の能力が高い人もいる。対人関係で五月病やうつ症状になる人は、自分を過度に責めなくていい。世の中のオンライン化を一層進め、おのおのの能力で勝負できる社会にする必要がある」

関心低下、ノーマスク 行動は変わるが…

八日から感染症法上の対応が「五類」に下げられた新型コロナウイルス。発生动向の把握やワクチン接種など、三年以上続いたコロナ対策の「変更」が相次いだ。だが、新たな感染拡大の懸念は残り、これで医療体制が改善するのかもしれない。五類になっても「変わらないもの」を考えた。(岸本拓也、木原育子)



8日昼すぎ、JR新橋駅前を歩き交う人たちは—東京都港区で

「アークトウルス? 何ですかそれ」

八日昼すぎ、JR新橋駅前。喫煙所で一服を終えた会社員服部研一さん(40)は「こちら特報部」の問いに不思議そうな表情を浮かべた。道行く人の六割ほどがマスク姿の中、ノーマスクだった女性会社員(30)も「知らないです」。

もともとは、うしかい座の一等星を意味する「アークトウルス」。最近では新型コロナウイルスの新たな変異株「XBB・1・16」の通称として知られる。米国やインドなどで、じわりと流行し始めており、世界保健機関(WHO)が四月に「注目すべき変異株」の電子顕微鏡写真(左面)も「国立感染症研究所提供」

株」に分類した。五類化で人の行動が変わっても、ウイルスの性質は変わらない。新型コロナウイルスは次から次へと変化し、アルファ株やデルタ株などが出現した。現在は比較的重重化のリスクが低いとされるオミクロン株(XBB・1・5)が世界的に主流となっている。が、今も変異は続いている。昭和の大二木芳人客員教授(感染症学)は「世界中ではやっっているXBB・1・5の『娘株』、つまり次の変異株が増えている。XBB・1・16もその一つ。米国では、こうした新たな変異株の比率が全体の三割に上る。いずれXBB・1・5も新たな変異株に置き換わるだろう」と指摘する。これら新型の変異株について「今のところ爆発的に感染したり、重症化したりするリスクはXBB・1・5と比べて大差はない」。ただ、「ウイルスは変異を続けており、その種類は群雄割拠。その中から、突然大きな変異をし、ワクチンが効かなくなるとか、爆発的に増えるとか、厄介なものが出てくる可能性がある。監視を続けることが必要だ」と警鐘を鳴らす。「五類」は季節性インフルエンザと同等の扱いになる

変わらないものは

変異株 リスク

後遺症 未解明

ウイルス

こちら特報部

コロナ5類移行で

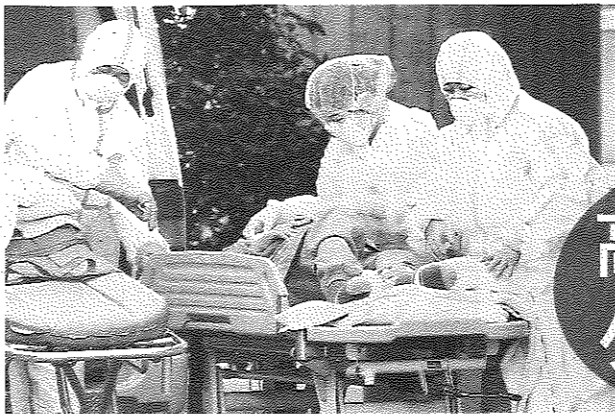
病床不足

責任はどこに

高齢者 ケアは

日本版 CDCは

「全ての病院で新型コロナウイルス患者の入院を受け入れる」... 限られた医療機関で対応していた2類からの移行で、政府はそう旗を振るが、先行きは不透明だ。



国立国際医療研究センター病院にコロナ患者を搬送する医療関係者。昨年2月、東京都新宿区で

補助金なく「机上の空論」

七千三百床余の確保病床数があつたが、移行後は約二千三百床に... 補助金なく「机上の空論」... 高齢者や基礎疾患、障害がある人たちが社会的支援のあり方だ。

「机上の空論」だ... そんな時、懸念されるのが、高齢者や基礎疾患、障害がある人たちが社会的支援のあり方だ。



昨年6月に記者会見した岸田文雄首相。「日本版CDC」創設などを表明した。首相官邸で

も慎重に見守ってきた人たちだ。五類に移行しても、これまでの対応と何も変わらない... 「アメリカのCDCもトランプ大統領が圧力をかけた...」

本音のコロナ



いま、東中野駅にちかいい「ポレポレ東中野」で上映されている『大地よアイヌとして生きる』

「新法」を制定したのは二〇一九年だった... 追悼の会」を開いた。

鎌田 慧

アイヌの復権

「ポレポレ東中野」で上映されている『大地よアイヌとして生きる』... アイヌの復権... 自然の中で生きてきたアイヌの自然観が語られている。

「4月30日」二〇一九年三月に沖縄県今帰仁村沖でジュゴンの死骸が漂着しているのが見つかったことを受け、辺野古の浜を守る会...

「ジュゴンまた戻ってきて」

辺野古高江リポート



祭壇に飾られたジュゴンの絵をなでる参加者。4月30日、名護市辺野古の浜で

魔しないではない」とと工事中止を訴えた... 【5月3日】二〇二三憲法講演会... 齊加尚代さん(左)が講演した。

た。新たな戦前を迎えないため「学校の先生もメディアの」記者も戦争を呼び寄せる加担をしてはいけない」と強調... 齊加尚代さんは「教育と愛国」で、教育や学問への政治介入を描き、沖縄戦の「集団自決」(強制集団死) 記録の教科書問題なども取り上げた。